
花

双魔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花

【Nコード】

N9003A

【作者名】

双魔

【あらすじ】

初投稿です。まだまだですが見てください

別れは突然だった。

彼は私を置いて行ってしまった。

昨日まで普通に会って普通にさよならして、いつも通りだった。

彼は一通の手紙と花の植木鉢を置いていった。

彼は夢だけを連れて消えてしまった。

あの並木道を二人で歩く事も……あの口笛も……あなたの優しい声も聞く事もできなくなった。

握った手にわずかな温もりだけ残して消えてしまった。

そしてあの別れからいくつもの時が流れた。

時間の波は私から彼の面影も手の温もりもすべて奪って行った。だけれど私はあの植木鉢の、一度も咲く事のない花の世話を忘れた事はない。『花が咲いたら……』

あの手紙も今ではどこかに消えてしまった。でも内容は忘れることもなく、ちゃんと今でも覚えている。

『迎えに来るから』

彼はもう戻ってこないかもしれない。

私の事も花の事も全部置き去りにして夢と逃げたのかもしれない……もしかしたら別の女と結婚して子供もいて仲良く幸せに暮らしているからもしれない。だけれど私は待っている。なぜかって？

だって

だって

花はまだ咲いていないのだから。

だから私は彼を待っている。

そして今日も私は花の世話をします。

咲くまで永遠に……

くあとがきく

この作品が初投稿つと言うことになります。

感想とか来れたら、これからの励みになりますんでお願いします
もちろん駄目出しも大丈夫のでドシドシください。

それでは見てくださった皆様、次回作！？で会いましょう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9003a/>

花

2010年12月14日21時48分発行